



Bouquet

ブーケ

特集号

特集

中央区女性史

いくつもの橋を渡って——発刊

中央区女性史
いくつもの橋を渡って

聞き書き集

中央区・中央区女性史編さん委員会

中央区女性史
いくつもの橋を渡って

通史

中央区・中央区女性史編さん委員会

CONTENTS

『中央区女性史』発刊	2P
『中央区女性史』の監修・執筆を担当された江刺昭子さんに聞きました	3P
『中央区女性史』編さん委員座談会	4P
6月23日～29日は男女共同参画週間です	6P
インフォメーション	6P
女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか?	7P
中学生の皆さんへのメッセージ	8P

「中央区女性史」

歴史に埋もれた女性にスポットを当てる

平成19年3月、約3年間の編さん作業を経て、『中央区女性史 いくつもの橋を渡って』が発刊されました。これまで歴史書の多くは男性を中心としたもので、女性が登場することは非常に稀でした。しかし、歴史の表舞台に出るのは男性がもしませんが、庶民の暮らしを支えてきたのはむしろ女性であり、地域においても女性の力が発揮されてきました。女性は過去においても大きな役割を担ってきたのです。『中央区女性史』は、歴史に埋もれた中央区の女性にスポットを当てた価値のある一冊です。日本において地域女性史がどのようにして誕生し、発展していったのかを見ていくとともに、『中央区女性史』の魅力を探ってみることにしましょう。

地域女性史の誕生

昭和30年代に 女性史研究会がスタート

女性史を記述した書籍としては、『日本女性史』(井上清著)、『母系制の研究』(高群逸枝著)、『女工哀史』(細井和喜蔵著)などがありますが、対象を地域に絞った地域女性史と呼ばれるものが登場するのは昭和30年代になってからのことです。当初は昭和34年に発行された『京おんな』(京都新聞社編集局編)をはじめ、地方新聞に連載されたものが単行本として発行される場合が多く、著者も男性が多数を占めていました。

地域女性史という言葉は、昭和52年に名古屋で開催された、第1回女性史のつどいで使われたという記録が残っています。しかし、この頃は地方女性史という呼び方も同時に使用され、地域女性史が定着したのは昭和55年以降だといわれています。地方という言葉は、中央とその他の地域との力関係を表わす、差別的な印象もあるような表現ですが、地域という言葉にはそうした否定的なコンナスはあまりありません。

ん。自分たちの住んでいるところを中心に考えていくという姿勢を明確にした呼び方といえるでしょう。

ただし、この点に関して折井美耶子氏は『地域女性史入門』の中で、「日本の近代がもっていた『中央と地方』という構造を見えなくさせてしまうことにはほしくないだろうか。(中略)『地方』ということの自身も含んで地域女性史は考えていかなければならない」と中央に対しての地方という視点を失うべきではないことを指摘しています。また、現在の行政単位と過去の地域が必ずしも一致していないことにも注意を促しています。

一方、女性史研究会の活動が始まったのは、昭和31年に生まれた愛媛県の女性史サークルが最も早いとされています。その後、昭和34年に名古屋女性史研究会、昭和45年に広島女性史研究会、昭和46年に大阪女性史研究会、昭和47年に北海道女性史研究会が誕生するなど、次第に全国的な広がりを見せます。こういった女性史研究会等の活動成果は、昭和44年の『母の時代 愛知の女性史』を皮切りに、徐々に世の中に登場していくこととなります。

いくつもの橋を渡って「発刊

地域女性史の変遷

男女共同参画社会実現の 一翼を担う

昭和50年の国際婦人年をきっかけに、婦人問題は日本でも社会的な注目を集めるようになりました。婦人問題や女性史の講座が各地で頻繁に開かれるようになったのもこの頃からです。

地域女性史は、昭和62年に神奈川県的女性施策の二環として『夜明の航跡 かながわ近代の女たち』が発行されてから大きく変貌します。これまで自主研究会が中心となっていた地域女性史の編さんに、自治体加わるようになってきたのです。神奈川県の場合は、県立の女性センターと地域住民、専門研究者によつて編さんが進められました。これによつて、個人や自主研究会では難しかった幅広い資料の収集や聞き取り調査が可能になり、内容も充実したものになりました。

その後、平成元年に東京都の足立区が、『葦笛のうた 足立・女の歴史』、平成2年に神奈川県川崎市が、『多摩の流れにときを紡ぐ 近代かわさきの女たち』を発行す



るなど、全国で自治体による地域女性史が積極的に出版されるようになっていきます。さらに、男女共同参画社会基本法が成立すると、地域女性史の編さんは自治体の女性施策のひとつとなっていきます。そしてその目的も、「21世紀の男女共同参画のあり方を探るために女性の歴史を省みる」と位置づけられ、男女共同参画社会の実現に向けて大きな役割を担うこととなります。

『中央区女性史』の魅力 「人」に着目した、 趣のある女性史

『中央区女性史』も、このような時代の流れを受け、編さんが進められることになりました。平成16年4月に編さん委員と語り手を区民から公募。編さん委員、資料収集アシスタント、そして女性史研究の専門家で構成される編さん委員会がスタートし、中央区立女性センターを拠点に作業が行ってきました。

サブタイトル「いくつもの橋を渡って」は、かつて中央区内の川や堀、運河には日本橋、兜橋、京橋、数寄屋橋…など数多くの橋が

かかり、人々はその橋を渡って日々の暮らしを繰り返していたこと、また「橋を架ける」「橋を渡る」というように、橋は人と人との交流や人生のさまざまな瞬間を象徴するものであることから名づけられたものです。今は多くの川が埋め立てられ、橋も地名に残るだけとなってしまいましたが、かつて水運で栄えた中央区の原点ともいえるタイトルとなっています。

『中央区女性史』は、「通史」と「聞き書き集」の2分冊で構成され、「通史」は編さん委員会を指導した女性史研究者の江刺昭子さんが執筆、「聞き書き集」は区民編さん委員が語り手からの聞き取り、テープ起こし、まとめ作業等を担当しました。

「通史」は単なる年代的な歴史の記述ではなく人物にスポットを当て、これまでにならぬ斬新なスタイルに仕上がっています。中央区は江戸時代から商業地域や歓楽街が発展し、明治時代に入ってから銀座が日本一の繁華街として発展してきた土地です。このようなか、女性はさまざまな場面で活躍してきました。人物、とりわけ女性のありかたを中心に歴史を振り返ることにし、これまでの歴史書に描かれてきたものとは違った社会の側面が見えてくることになりそうです。

一方、「聞き書き集」は、中央区ゆかりの48組55名からこれまでの生活や地域に関する話を直接聞き取ってまとめたものです。かつての職業も会社員、教師、看護婦、商店勤務などさまざまです。女性差別が当たり前だった時代の苦労だけではなく、そんな中でも前向きにいきいきと歩む様子も伝わってきます。その時代の確かな生活を知ることによつて、過去の貴重な財産を受け継ぐとともに、未来への指針を求めることができるはずです。

『中央区女性史』の 監修・執筆を担当された

江刺昭子さんに 聞きました

『中央区女性史 いくつもの橋を渡って』を監修するとともに、通史の執筆を担当された女性史研究家の江刺昭子さんに、女性史編さんにかかる思いを語っていただきました。

女性史との出会い

1971年に原爆文学の作家である大田洋子さんの評伝『草履(くさずえ) 評伝大田洋子』を出版しました。執筆にあたり、大田さん本人のこと以外にも時代背景などを勉強したのですが、その際、女性についての資料があまりに少ないことに気づきました。その後女性をテーマにした評伝やノンフィクション作品に取り組みうち、「女性史」の面で評価され、その分野の講座などと呼ばれるようになったのです。

75年の国際婦人年を境に、自立した学問のひとつとして「女性学」の講座などが開かれるようになりましたが、女性史は学問とは少し違った分野の出身の女性たちの「実感」の中から育ってきました。戦前には政治や家制度、教育、職業などあらゆる面で女性が不利な立場でしたが、戦後になって自分が育ってきた環境の中でも、中・高等学校では女子だけに家庭科の授業があったり、女子の四年制大学進学が珍しかったりと、理不尽に思うことが多々ありました。また就職活動でも希望の職種に女子の採用がなかったり、結婚してからも共働きなのに家事や育児がすべて自分の仕事になつて



まっていたり…。そんな消化されない思いが女性史に取り組むきっかけになったのだと思います。

地域女性史への取り組み

まず最初に82年、神奈川県婦人総合センター(当時)ができて、県の女性史を編さんすることになり、4人の専門家の一人として加わりました。行政と地域住民と専門家が一緒になって取り組んで、87年に『夜明けの航跡』を出版し、これがモデルとなつて次々と地域女性史が出版されます。中央区は女性史を出版した自治体としては都内で12番目です。

市民の自主活動として女性史を研究しているグループも多いですし、その人々が勉強会を重ねた上で行政に働きかけて出版にいたる例もあります。

中央区女性史を作るにあたって

中央区では女性史編さんに着手するにあたり、編さん委員を公募しました。市民が自ら団体をつくって主体的に活動している地域と比べると女性史に対する知識にばらつきがありましたので、委員の方々はかなり大変だったと思います。そこで、聞き書き集では、まず中央区の歴史や女性史とは何かといったことに関する講義を行い、その後委員の皆さんが手分けして聞き取り、執筆したものを監修しました。

「通史」は全体の中での位置づけができないと書けませんので、かなり勉強が必要で、こちらは経験のある2名のアシスタントの方に手伝ってもらいながら、私がまとめました。かつて他所で出版した女性史では、委員の皆さんが書いたものを調整しながら編集するのに大変な時間と労力を要しましたが、今回は一人で執筆しましたので、ハードな興味深い体験となりました。

中央区は歴史もさることながら、「人物」も実に多彩で、大変おもしろい地域です。テーマはいろいろありますが、まず江戸時代から日本経済の中心で、商家・大店が多かつたところですので、商家の女性たちがどのように生きたのかということ。表舞台には男性しか出てきませんが、その裏で働く女性たちの生活を描きました。

また、あまり知られていないことですが、築地には外国人居留地がありました。横浜などは貿易商が多く栄えましたが、築地に暮らした外国人は宣教師といわゆる教員がほとんどで、現在も続くミッションスクールの多くがここを発祥の地としています。

花街など華やかなところもたくさんあります。京橋と日本橋を含めると、東京では番規模が大きく、芸者さんや芸事の師匠などがたくさん暮らしていました。その反面、関東大震災と第二次世界大戦の戦災では、区のほぼ全域で被害を被っています。そこから立ち直っていくときの話からは、女性の強さを感じます。

つい勢いにつれて原稿を書きすぎてしまい、文章も写真も掲載しきれず、もったいないことに大分削りました。焦点の当て方ひとつでいくつでも書けるといっても過言ではないほど面白い地域で、今までにない「人」に焦点を当てた女性史に仕上げるべきか、ときました。

資料保存の重要性

資料は、京橋図書館に所蔵されているものが大変参考になりました。歴史ある図書館で戦災にも焼けなかったため、貴重な資料がたくさん残っています。東京都の公文書館などにも古い資料が残っています。助かりました。

今後の課題は、本になつた後の資料保存です。とくに聞き書きの取材は有名人ではない普通の女性の生の声を記録したもので、高齢の方も多く、二度と聞けなくなる可能性が高い話ばかりです。取材時のテープやテープ起こしたもののなど、オールヒストリーの素材は貴重な資料で、全国的に同じようなものが膨大にあるはずですが、きちんと保存できていないのが現状です。整理や保管にも知識が必要で、また担当者が変わってしまったらすると、貴重な資料であること自体を伝えていくのがなかなか難しいです。個人情報や差別用語の問題などもあり、どこまで公開すべきかなど議論はありますが、研究のために必要な場合もあるので、ぜひ永久保存してほしいと思います。

自治体史にも「女性史」を

県史や区史など自治体で歴史の本を作るとき、編さん委員に女性の研究者が加わることは稀です。しかも政治家や官僚、経済人の男性ばかりが登場するものも多く、女性に関する記述があつたとしても、「女性史」といった位置づけです。

歴史学では従来、聞き書きという手法や口伝承は軽視され、文字化した資料が何より信頼されてきました。では文字資料がいつでも正確かというところも言い切れません。そもそも女性についての文字資料は、男性のそれに比べて極端に少ないです。新聞などに取り上げられる機会が少なく、たまに登場するとしても事故や事件の関係者だったり、男性に付属するカタチで、

夫人などと記述されるのみであることも、要因のひとつです。政治、経済、社会的情報にかかわるのも男性、その情報を伝えるのも男性では、文字資料に限らずあらゆる記録の登場人物が男性となり、まとめ

方や内容に偏りが生じても不思議ではありません。社会的地位の高い男性の視点でまとめられた文字資料は正確で、市井の女性の語りが不正確であるとはいえないと思います。

地域女性史の今後の課題

女性史に取り組む方々の年齢層が固定化されつつあります。先人の女性たちが長い時間をかけて得た権利や、苦勞して古い慣習を変えてきた経緯などが若い世代には見えにくいのでしょうか。多様な年齢層の方にこの活動にかかわってもらいたいものです。

東京でも地域女性史に取り組む自治体が次々と現れています。これが各地方に広がるのいいと思いますし、ぜひ男性にも加わってほしいです。地域の歴史資料は地元にあるのです。地元の方にぜひ地域の歴史に触れる面白さを知ってほしいと思います。

プロフィール えさし・あきこ
1942年生まれ。文化出版局に編集者として勤務後、71年からフリーに。人物評伝、女性史などの研究、執筆を始める。80年頃から公民館、女性センターなどで地域女性史に関する指導を行う。日本エディタースクール、埼玉大学講師。主な著書に『草履 評伝大田洋子』(講談社、第12回田村俊子賞受賞)、『覚めよ女たち 赤瀬川の人びと』(大月書店)、『女のくせに 草分けの女性新聞記者たち』(文化出版局)など。編さん指導・執筆した主な地域女性史に『夜明けの航跡 - かながわ近代の女たち』(ドメス出版)、『千代田区女性史』(全三巻、ドメス出版)、『坂のある町で 区民が綴った目黒の女性史 通史編 聞き書き集』(ドメス出版)。

「中央区女性史」聞く書き集の編さん、携わった委員の一部の方に、刊行までの道のりや込めた思いをお話いただきました。

『中央区女性史』聞く書き集の編さんに携わった委員の一部の方に、刊行までの道のりや込めた思いをお話いただきました。

人生の先輩に地元の話を開けることが一番の魅力

司会 どのような理由で、女性史の編集に参加することになったのでしょうか。
成澤 私は中央区で生まれ育ち、この地域に長く住んでいる人を大勢知っているのので、何かお役に立てばいいかなと思って参加しました。文章をまとめる能力を磨きたいとも考えていたので、勉強するよいチャンスだと思いました。



なるさわとしえ
成澤敏枝さん

五十嵐 文章を作ることがあまり得意ではないので、自分には縁の遠い仕事だと思っていましたが、「ブーケ21」に出入りする機会が多いもので声をかけられて参加することになりました。私自身もいろんな方とかかわりがあり、戦前、戦中にさまざまな苦勞をされた方のお話を風化させないためにも、文字として女性史に残したいという気持ちがありました。

平井 半年ぐらい介護の仕事をしていた時期がありました。そのときに耳の不自由なお子さんを持つ方がいて、都電を乗り継いで隣の区まで半日かけて連れて通ったという話を聞きました。少し前の時代には子育てに大変な苦勞があったことを知り、驚く

と同時に「こういう話は残していかなければいけない」と思って、自費出版できたらいいねなんて娘と話していたのです。ちょうどそのとき、この女性史の企画を区の広報紙で見たので飛びつきました。なんてラッキーなことだろうって。私にとっては本当にありがたい機会でした。

神谷 フラや書道、海外研修修了者の集まりなどで「ブーケ21」に出入りすることが多く、こんなに大変な作業だとは思わずに気軽に引き受けてしまいました。今さらながら、とても大事な作業に携わってきたのだなと感じています。

村田 区の広報紙で編さん委員募集の記事を見たのがきっかけです。中央区に住んで長いのですが、勤めていたために、自宅はほとんど眠るために帰る場所となっていました。地元のことを何も知らなかったのが、人生の先輩に話を聞けることが一番の魅力で応募しました。想像以上によいものができて、記念になったとすごく喜んでいきます。

編さん委員の仕事を通じて、女性の力強さを実感



いがらしまさえ
五十嵐正恵さん

司会 今回、編さん委員として活動されて感じたことは何でしょうか。

成澤 中央区は商業地域なので、売り物の製造や卸から従業員のご飯の支度まで何でもやっつて、手が空いていればお店に出るといふような生活をしている女性が数多くいま

した。そういった、肩書きはもたないけれどしっかりと自分がある人を掘り起こしたわけです。

五十嵐 商家のおかみさんというのは朝から晩まで寝る暇もないような状態の中で不平を言わずに黙々と働き、そのうえ子育てもしていました。夫に先立たれ、一人で子どもと店を守って生きてきた人もあり、明治、大正期の女性の気丈さ、芯の強さを感じました。



ひらいきみこ
平井喜美子さん

平井 親から受け継いだ仕事を、子どもを育てるように大切に守るといふ女の人の姿がたくさんありました。表面は穏やかに見えても、柔軟な強さを持った女性は素敵だなと思いました。それにこの本の女性たちは自分の母親の姿を見て学んでいるんですね。私も3人の子の母親なので、子どもが素敵だなと思える姿を見せて生きていくことがひとつの目標になりました。

神谷 私も市井の名もない人の生き方を聞きたいと思い、そこに絞って聞き書きする方を選ばせていただきました。そして女性たちが真剣に生きながら、苦勞をも明るさに転化し、よい意味でしたたか、たくましく生きてきたことを感じました。自分たちの生き方の参考として、また私たちに続く人たちにも参考になればいいと思います。

村田 語り手の皆さんがすごく元気だということに驚きました。私が聞き取りした7人のうち、2人は民生委員を長くやってこられた方です。地域で活動してくださる方

がいるからこそ、私たちは生活できるのです。これからもボランティアを続けていくうえで、よい励みという目標になりました。地域への愛着もわいてきましたし、地元の人と知り合え、友だちができたこともよかった点です。

司会 12人の編さん委員による共同作業で得たことはありますか。

平井 私も新しい友だちができたことがうれしいですね。これからもお付き合いしたいと思っています。

神谷 編さん委員の仲間や語り手だけでなく、資料を提供してくださった方や女性史研究をする市民グループの人々など、いろんな方と知り合うことができました。皆さんすごく勉強していらっしゃると思いました。

五十嵐 委員には博識な人、文章作成の腕がプロ並みな人もいました。いろいろな人の出会いは新鮮で、若い人の考えを聞く機会にも恵まれました。お互いに情報交換や助言をし、助け合って作業を進め、委員の人たちと和を持ってたことが、私にとっては財産になったと思っています。

村田 女性史に関する知識や作業の力に差があったので、本当に大丈夫なのかなと思っていたのですが、編集の経験がある人が率先して作業をして、まとめて力を発揮してくれました。成澤さんは地元の「生き字引」で、成澤さんがいたからこそまとまったのではと思っています。

苦勞の末の嬉しい反響

司会 聞き書きには膨大な時間と苦勞が必要ですが、苦勞した点などはありますか。

成澤 語り手候補の本人は参加の意欲がある場合でも、ご家族に断られたり、高齢者施設に入居されていて話を聞くのが困難だったりということもありました。聞き取

りの中では、昔有名だった役者の名前がほとんど出てきても、「こちらは字もわからないので大変でした。結局、詳しい人に聞くと、月に一度集まったときに、皆で協力して調べなどして乗り切りました。

五十嵐 文章になつてから訂正をするという苦勞もありました。それを何回も繰り返して完成原稿にしていくわけです。

平井 文章にしづら会話というのも結構ありました。話題がそれとしまつて、近所のことや知人の話になるなど、本題を見失わないように進めるのが大変でした。その人の人生を語ってほしいのですが、質問の意図をうまく伝えられなかったせいか、必要なエピソードをなかなか引き出せなくて困ったこともありました。

神谷 その人の口調や特徴的な言い回しがいかにされるように、一字一句正確にテープを起こして、その人となりが出るようまとめたものを、ちやうと品がないので載せたくないと言われたときには、本当にがっかりしました。

村田 ご家族の介護をしている方を取材したことがあります。介護のために席を立たれるのですが、話を聞くのが申し訳なく、そこそこ帰ってくる感じでした。それと、原稿になつてから、こんなのはみつともないと感じられたのか、その文はこいついつうに直してくださいと細かく指摘される方もいらっしゃいました。

成澤 貧しかった頃のエピソードなど苦しい思い出が表に出ることを、語った後でためらわれる方もあります。原稿を確認していただく段階で、きれいに直されてくることもありました。

五十嵐 私は複数の人の聞き取りを行いました。私が、テープ起こしをして初めて取材が足りない部分に気づくこともあり、何度も語り手を訪問して肉づけしていきま

成澤 私は在住歴が長く地域に知り合いも多いので、相手の方が喋りにくくなることを避けるため、知っている語り手は他の委員に聞き取りしてもらうよう工夫もしました。

五十嵐 私も地元の人を取材したとき、相手が構えてしまっていてあまり話さなかったことがあります。やはり、聞き書きの取材に行くときは、知らない人のところに行つたほうが聞き取りやすいように感じましたね。最初はためらいもありますが、時間が経つとあれお互い打ち解けていくと思います。

司会 語り手の方々の反応はどつどつでしたが、**成澤** 語り手の娘さんが聞き書きの様子を見て、娘の立場で書いてみたいと言っていました。



かみやまさこ
神谷 聖子さん

神谷 もっとあの部分を語っておけばよかったという人もいっぱいいらっしゃいましたね。

平井 本ができるまでにお連れ合いを亡くされた方がいて、仏前に本を供えて、こんな立派な本ができたと言ったと聞いてびっくりしました。家宝にしますと言ってくださつた方もあります。

神谷 一回語ったことについて語った方がいきいきされて、ご本人たちにとってもよかったです。自分にはないかと思いましたが、語ったことが自信につながっているような感じがしますね。

村田 自分のような者の話でいいのかわからない縮されてきた方が自分の来し方について話を聞いてもらえること自体がとても嬉しかったと言われたのが印象的でした。

成澤 子どもたちが親の苦労を知らないケースもあります。これを読んで、お子さんたちが感動してお礼を言いたいとおっしゃった例もありました。また、あるケースでは

語り手の負担になっていっているのではと考えてきたお孫さんたちが、孫がいるから頑張れた」と書かれた語り手の頁を目にし、感激されていました。

聞き書き集の中には生活のヒントが隠されている



むらたやすこ
村田 靖子さん

司会 読者にはどの辺りに注目して読んでもらいたいか、また、今後どういったふうにごの本を活用してもらいたいかというふうな展望があれば聞かせてください。

成澤 私が聞き取りをした商家のおかみさんたちは、自分たちが修羅場をくぐってきたことを言わないのです。何となく通り抜けてきたみたいなことを簡単に言うけれども、みんなが寝てから洗濯をして、次の日の朝は働いている人の食事の支度をすることか、そういう苦労をしてきたわけです。これを読んで、中央区の土台をつくってきた親の生き方を知ってほしいと思います。たとえ貧しかったとしても、その中で生き抜いてきた強さを読み取ってもらいたいと思います。

五十嵐 今は男女共同参画社会と言われていますが、どの時代でも女性は活躍していたのです。今、女性が社会参加できるのは、この本に登場する女性たちが基礎を築いてくれたからだと思います。これを読み、その人たちの努力で今の女性の地位があることを若い人たちに知っていただきたいと思っています。

平井 子どもを育てる迷いとか、仕事に対する悩みはいつの時代にもあるものです。この本の中には何かそれを取り越えるヒントが隠されていると思います。生きていくための真の強さを、この本から汲み取っていただ

ければと思います。

神谷 聞き書き集はもとより、通史も写真を多用して、とてもわかりやすく書かれています。現在の中央区のもととなるものなので、ぜひこちらも読んでほしいですね。二つ二つ歴史を知つたうえでいまを生きるということが大事だと思います。

村田 これを全部読んでいただくかわかりませんが、生活していくうえで大切なもの、家族愛、近隣のお付き合い、そういった部分が多岐にも共通してあります。昔はいかに協力しあつて暮らしていたかがわかります。今、プライバシーの問題があまりにも前面に出すぎてしまっているのではないのでしょうか。問題が起つたとき、一人で悩まず、経験談など、この本を生活のヒントにしてほしいと思います。

今後それぞれの場で経験をいかして

司会 最後に皆さんの今後の抱負をお願いします。

村田 ある語り手から、昔の話だけではなくて、今の話も聞いてくださいと言われました。「おばあちゃんの知恵袋」じゃないですが、自分が母親から受けた教育やしつけの話をしたというのです。私自身もファミリー・サポート・センターのボランティアをしておりますから、子育てのヒントを年配の方からうかがうことは参考になりますし、子育てをする人への一助となれると思うので、そういう話を聞くことをこれからの課題にしたいと思っています。

神谷 先輩たちに今を楽しみ、生きがいを持って生きていただくために、日本橋のデイケアセンターで月に1度書道の添削指導をさせていただいています。そこでは皆さんの「向上しよう」という意欲が感じられます。いくつになってもそれは素晴らしいと思います。その後押ししていきたいと思っています。

平井 今、中央区の文化財サポーターという活動をしていて、築地地区を担当していま

す。私の実家も魚河岸ですから、そこで働く女性たちにはすごく興味があります。築地市場移転の話もありますから、できるなら現役を離れた高齢の方の話も聞いてみたいという希望はあります。

五十嵐 地域で30年近くボランティア活動をやってきました。いろいろなお年寄りや接する機会が多いものですから、女性史にかかわつた経験をいかして、90代の方の語りを綴つたり、傾聴ボランティアをしたいと考えて

います。健康であれば、地域活動はずっと続けたいですね。

成澤 女性史の研究は私個人ではとてもできることではないので、できれば資料整理のお手伝いをしたいと思っています。残念ながら文字にならなかつたものなども含め、今回回収した資料や情報を整理して、目録でも作ることができればと思います。

司会 皆さんの今後の活躍を祈念しております。

平成19年4月21日(土)
**「中央区女性史発刊のつどい」が
開催されました。**



うららかな陽春の午後、『中央区女性史』のつどい会場。中央区女性史編さん委員会による、中央区女性史編さん委員会による、中央区女性史発刊のつどいが開催されました。貴重なお話を聞かせてくださった語り手の皆さんを中心に、ご協力いただいた方々をお招きし、関係者も含め総勢60名あまりが集まり、発刊までの道のりやイベントなどを語りながら、楽しいひとときを過ごしました。

会は編さん委員会による語り手への感謝のことで始まり、絵画資料提供や編さんに関する助言をしてくださつた方々からの祝辞、編さん委員等作りの紹介といった流れで進行しました。通史部分の執筆と編さん全般の指導にあつた女性史研究者の江刺昭子さんからは、地域女性史についての解説とともに、『中央区女性史』

完成までの経緯が語られました。女性史編さんの経験をもたない人が大半を占める状態で委員会をスタートしてから、行政と地域住民、専門家の三者で進めてきたこと、商業の中心地であった日本橋、キリスト教系学校発祥の地である築地居留地など、中央区の特徴あふれる女性史を作り上げるために奮闘した過程、関東大震災や戦災の被害が甚大であった中でたくましく、多彩に生きた女性を取り上げた内容の濃い女性史であることなどが話され、参加者は熱心に聞き入っていました。

語り手自身による自己紹介の場面では、出生地や生い立ちなどが簡単に話されました。近隣に在住とはいえず語り手の方としては初めて顔を合わせる人が多かつたようですが、皆笑顔でお互いの話に耳を傾けていました。家族の話や地域活動に取り組む様子などに話がおよぶと時折歓声も上がるなど、会場は賑やかな雰囲気になりました。

参加した語り手の方からは、このたびの女性史編さんについて、今回の参加がきっかけで、幼い頃親しんだ地域を久しぶりに散策してみたり、自分史を書いてみようという気持ちになつた、といった声や、「聞き取りに応えるうち、昔の記憶が次々と蘇つてきた。まだ若い人たちも、日々感じたことを今から書きとめておく、よいと思う」という感想が聞かれ、今回の女性史編さん事業が、かわつた多くの人々にとって有意義なものであつたことをつかがえる時間でした。

(フイケ21事業協力スタッフ取材・執筆)

information

ブーケ祭り 参加団体一覧

会場	団体名	内容
1階 展示コーナー	エガリテ	男女共同参画に関する学習と活動内容の展示
	銀座育成婦人会	定例会及び懇親を深めるための学習・見学会の展示・手芸等体験
	中央区消費者友の会	展示「保険はもしもの時の保障です。入る前にはここに注意」
	中央区女性ネットワーク	女性団体のネットワーク活動の展示
	美気(みな)の会	老人ホームでの顔のマッサージ・メイク・ネイルケア・お話などの様子の展示
	東京都下水道局桜橋第二ポンプ所	下水道施設PR、都市下水道のしくみ、下水道なんでも相談
	中央区社会福祉協議会	ファミリー・サポート・センター等、社会福祉協議会事業の紹介
	ブーケ祭り実行委員会	暴力のない世界へ願いをこめて「パープルリボン」を
中2階 女性のからだや生活のコーナー	CCG研究会	社会保険労務士による労働・社会保険と生活等の相談
	日本助産師会東京都支部 中央区分会(22日のみ)	いつも頑張るあなたの両手をマッサージ!! 生む力、生まれる力、育つ力をサポート
2階外 友好支援コーナー	オスピーの会	自立支援:「八ヶ岳緑の風」の花苗などの販売
	中央区社会福祉協議会 「さわやかワーク中央」	ファミリー・サポート・センター等での作品の販売
3階 展示コーナー	エコボックス9	知ってる?「緑と水の大切さ」
	カトレアグループ	生花で作る色彩豊かなかわい作品の展示、体験
	かな書道を親しむ会	かな書道作品展示、かな書道はがき作成体験
	くまちゅ〜クラブ	粘土・ガラス・布で、より楽しいものとクラブづくり、体験
	新日本婦人の会中央支部 女性の地位向上委員会	へたでいい、へたがいい、絵手紙展と絵手紙体験
	中央区環境保全ネットワーク	知ってる?「エネルギー」のこと、楽しく体験 なるほど!
	中央区つつじ会	精神障害者への理解を深め、共生できる社会へ 展示
	エコ・ピーピング	知っている?暮らしに役立つ木の力! ためしてみようネ
	人形教室みやび会	木目込み押絵の展示、体験
	パフォー マンス コーナー	アマーピレ(23日のみ)
アンジェロ(23日のみ)		コーラス:輝きのハーモニー「花」「荒城の月」 「浜辺の歌」他
エーデルワイスの会(23日のみ)		コーラス:「千の風になって」ほか
三遊会(22日のみ)		落語:「堀の内」「元犬」「寿限無」「たらちね」ほか
レイロケラニ(23日のみ)		フラは、いやしの曲に乗って詩を表現
朗読の会(23日のみ)		朗読:いぬいとみこ作「川とノリオ」
朗読ボランティアグループ わかばや会(22日のみ)		絵本の朗読:「鬼のうで」「まってる」「60歳のラブレター」
茶友倶楽部 えん(23日のみ)		輝きをつなぐ茶の湯の(わ)みんなで和茶、和茶
実行委員会(22日のみ)		ワークショップ「あなたのからだを知ろう いつでもどこでもできるあなたのための体操」
朗読ボランティアグループ わかばや会(22日のみ)		絵本の朗読:「鬼のうで」「まってる」「60歳のラブレター」
4階 ひと休み コーナー	中央区女性海外研修者の会	女性問題を国際的視野でとらえ、地域社会での活動の展示
	軽食コーナー(中央区女性海外研修者の会)	

6月23日〜29日は
「男女共同参画週間」です

毎年、6月23日から29日は「男女共同参画週間」です。男女が互いに自立した個人として尊重され、対等な関係のもとに喜びと責任を分かちあえる社会を実現するという男女共同参画社会基本法の理念を、多くの方に知っていただくことを目的に設けられました。この期間中、全国各地で男女共同参画に関するさまざまな催事が行われます。中央区内では、6月15日(金)から29日(金)まで、有楽町マリオンビジョンと八重洲新光ハローボードで、今年の男女共同参画週間標語「いい明日は仕事と暮らしのハーモニー」の電光掲示が行われます。

第6回「中央区ブーケ祭り」の開催



「中央区ブーケ祭り」は、中央区における女性の活躍と男女共同参画の推進、また区民団体の交流を目的に毎年開催するものです。今年「輝きをつないで」をメインテーマに、女性センターを拠点に活躍する28団体が、日頃の活動成果を発表します。さまざまな展示、体験しながら楽しく学べるブース、実行委員会主催のワークショップや軽食コーナーもあります。会場内では、一昨年以来、「ブーケ祭り」の恒例行事となっている、「男女共同参画かるた取り大会」も行います。おひとりでも、お友達やご家族連れでも、どなたにも楽しんでいただけるお祭りです。お気軽にご来場ください。



日時
一日目 6月22日(金) 午前10時〜午後5時
二日目 6月23日(土) 午前10時〜午後4時
会場 女性センター「ブーケ21」

「講演と映画のつどい」の開催
区内女性団体の横断組織である中央区女性ネットワークと中央区の共催で、講演と映画の会を開催します。お誘いあわせのうえ、ご参加ください。

第一部 映画
上映作品 『地球交響曲 第二番 佐藤初女篇』
山間の素朴な小屋で、心傷ついた人々を手作りのおむすびによつてあたたかくもてなす、佐藤初女さんの姿を追った作品です。

以上催事の申込・問合せ先
女性センター内
総務部総務課女性施策推進係
TEL (5543) 0651
FAX (5543) 0652

研修室等の貸出し休止
ブーケ祭りの準備・実施等のため、6月21日(木)の午前9時から6月23日(土)の午後9時まで、情報資料コーナーおよび研修室等は利用できません。

第二部 講演
講師 佐藤初女(森のイスキア主宰)
「森のイスキア」開設に至る経緯や、おむすびに込めた思い、信仰とのつながりなどについてお話しいただきます。

日時 平成19年7月7日(土)
午後1時30分から3時30分
会場 日本橋社会教育会館ホール
(中央区日本橋人形町1-17)
対象・定員 区内在住・在勤・在学者 200名
費用 無料
託児 満1歳以上で未就学のお子さんをお預かりします。6月25日(月)までに電話でお申し込みください。
主催 中央区女性ネットワーク・中央区申込先着順です。電話またはファクスでお申し込みください。



中央区からのお知らせ

中央区女性ネットワークの総会が開催されました

中央区女性ネットワークの総会が5月23日(水)に開かれました。

中央区における男女共同参画の推進と、区内女性団体の連携をめざして設立された中央区女性ネットワークは、中央女性ネットワークコースの発行や講演会開催等、女性センターを拠点に活動しています。昨年度も、会員団体である中央区消費者友の会との共催講座やひなまつりロビーコンサートなどを積極的にに行い、大きな反響がありました。

総会当日は河本佳子会長の挨拶に始まり、18年度の活動報告、新役員選出と続き、その後今年度の事業計画等について議事が行われました。

おすすめ図書

女性センターでは、1階のロビースペースに情報資料コーナーを設け、男女共同参画に関する図書資料をそろえています。性別にとらわれず、自分らしく生きるためのヒントとなるような情報に富んだ書籍が充実しています。今回はその中から2冊をご紹介します。

『人の役に立ちたい』

教育・医療・福祉・法律

ついで応援団・編著



将来を考え始める年頃の読者向けに、さまざまな職業の特徴を紹介した『女の子のための仕事ガイド』シリーズ第1作。そ

それぞれの職場で奮闘する21人の先輩が、仕事のやりがいや楽しさを語ります。資格取得方法や問合せ先一覧も充実しています。

『ジェンダーの世界地図』

藤田千枝・編著



図表や親しみやすいイラストを使って、世界の実情を伝える、くらべてわかる世界地図シリーズの3作目。困難な状況を強いられる地域の女性や子どもの実態から日本の姿も見えてくる一冊です。

館長後記

はじめまして 松川淳子
ご縁があって、4月から女性センター「ブーケ21」の館長を務めることになりました。始まったばかりのこの新しいお役に、とても緊張しています。どうぞよろしくお願いいたします。
中央区は、今年区制60周年を迎え、時期を同じくして「中央区女性史」も完成しています。江刺先生のご指導と、皆さまの熱意が結集して、すばらしい1冊になりました。商家に生きた女性、学校教育の中の女性、表現者としての女性、等々、この本に出てくる中央区の特性を担うたくさんの女性たちが、どなりに座って語りかけてくる友人のように思えてきます。彼女たちは、私たちに、市井に生きる一人ひとりのたゆまない努力が、未来を築くことにつながることを教えています。この声に耳を傾けながら、そして世界の友人たちと手をつなぎながら、私たちが未来をつくる努力を続けたいものです。

編集後記

今回は「中央区女性史 いくつもの橋を渡って」の刊行を中心に地域女性史を特集しましたが、いかがでしたか。「中央区女性史」で取り上げた明治後期から昭和にかけての時代、日本では女性の権利はなかなか認められていませんでした。政治参加も許されず、あらゆる場面で言動が制限されるなか、震災や戦災の苦難に見舞われながらも賢く、たくましく生きてきた女性たちの姿は、平成の時代に生きる私たちを大きく勇気づけてくれます。先輩の生き方にヒントを得て、充実した人生を送ってほしいものです。

女性センター「ブーケ21」へ来てみませんか？

女性センター「ブーケ21」は、男女共同参画推進のために活動する方を支援し、中央区がだれにとっても自分らしく生きられるまちとなることをめざす施設です。

主な事業

活動の支援

男女共同参画に関する活動を支援する目的で、研修室や資料作りのための印刷機器を貸し出しています。また関連の図書資料をそろえ、閲覧・貸出サービスをしています。

情報の発信

各種講座の開催や、中央区男女共同参画コース「Bouquet」の発行を通し、男女共同参画に関する情報を提供しています。

女性相談の実施

女性のさまざまな悩みに、専門の相談員が無料でお応えしています。秘密は厳守されますので、お気軽にお電話ください。

相談室開設時間 要予約

毎月第1・2・4・5水曜日/午後1時から4時まで 第3水曜日/午後5時30分から8時30分まで
相談専用電話 03(5543)0653

相談室開設時間以外でも、女性センター開館時間中は予約を受け付けています。

開館時間

午前9時から午後9時
(12月28日から1月4日までと臨時休館日を除く)

利用できる人

男女共同参画に関心のある方。性別や年齢などを問わず、どなたでも利用

利用方法

研修室等

利用申込書に使用料を添え、女性センター受付へお申し込みください。男女共同参画推進を目的とした団体には、優先予約や使用料の減額などが可能になる団体登録制度もあります。また、お子さん連れで活動をする方のために、研修室等とあわせて利用できる保育室があります。保育者は各自手配

情報資料コーナーなど

1階情報資料コーナー、交流コーナーは無料です。机やパソコンもあり、男女共同参画に関する活動などに利用できます。



自然光が降り注ぐ交流コーナー



学習活動に役立つ研修室



茶道や体操にも使えます



調理設備があるワークルーム



明るい雰囲気保育室



Bouquet から 中学生の皆さんへ 男女のフィルターを外して 見つけてください 「自分らしさ」

「自分らしさ」が一番！

皆さんは、本当はもっと違うことがしたいのに、「女だから」「男だから」という理由で、自分の行動や発言、考えなどを変えてしまった経験はありませんか。



例えば女の子は素直でやさしく、男の子は強くてたくましくなければならぬ、などといわれることがあります。しかし、これは人間が生まれたときからともと

そなえている性の特徴ではなく、社会の中でつくられてきたものなのです。

女であること、男であることは、その人の個性をかたちづくる要素のひとつでありません。私たち一人ひとりの性格や容姿が違うように、得意・不得意、好き・嫌いもそれぞれです。

素直でやさしい心は男女を問わず持つていたほうがよいものですし、力が強くたくましいのは男性に限ったことではありません。「女らしさ」「男らしさ」を気にして、自分の気持ちややりたいことがまんしてしまつてではなく、「自分らしさ」を大切にしましょう。

家事はだれの仕事？

皆さんの家庭でも、外へ出て働いているお母さんは多いと思います。仕事で疲れて帰ってきたお母さんに、家事を任せきりにしていませんか。

お母さんは仕事のほかに家事や育児までして、家に帰ってきていつも疲れてしまつていたら、どうでしょうか。家事の代表的なもの、例えば料理や、掃除や、洗濯などは、お母さんでなくてはできないことではありませんし、ほんの少しのやる気があれば、だれにでもできることです。家族みんなの生活に関係することは全員で分担し、協力しあつていくことが大切です。皆さんも家族の一員として、積極的に家事にかかりましょう。

また、皆さんも将来、自分の力で生活しなければならぬ日がくることでしょう。

そのときになって、掃除も洗濯もできません、では困つてしまいます。人が生きていくうえで必要なことに、男女の別はありません。

快適に暮らしていくために、必要なことを今から身につけておきましょう。



将来の夢、持っていますか？

皆さんは将来、どんな職業につきたいですか。女性でも男性でも、自分の職業を選ぶ権利があります。

現在は結婚して家事に専念する女性も多いですが、皆さんが大人になつた頃には今よりもさらに、社会に出て働く女性が増加すると思われまふ。理系の研究職、大工、消防士といった、従来は男性ばかりだつた職業につく女性や、逆に女性が担い手の中心だつた保育士や看護師などをめざす男性もどんどん増えていくことでしょう。「女だから」「男だから」というフィルターを外してみると、本当に自分がやりたい



いと、自分本来の姿が見えてくるかもしれません。皆さんはいろいろなことにチャレンジし、自分の可能性を広げてください。そして、「夢」を、「本当にやりたいこと」を見つけてください。

新聞、雑誌、インターネットなど、さまざまなメディアから発信される情報。その中の隠れたメッセージに、あなたは気づいたことがありますか？例えばテレビCM。

台所風景が登場するとき、そこにいるのは大抵お母さんやおばあちゃん、そして子どもたち。お父さんもおじいちゃんも不在です。ダイエット飲料の広告に出てくるのはスリムな女性。一方、栄養ドリンクのCMの主役は筋骨隆々の男性です。スポーツ新聞の見出しには、「スケートのミキティ、真央ちゃん」「柔道のヤフラちゃん」「ゴルフの藍ちゃん」。女性選手の記事ではフルネームより先に選手の愛称が大きく出ています。

いつも何気なく見ているものばかりだけど、何か変だと思いませんか？キッチンを使うのは女性だけ？ダイエットが必要な

は女性で、体力をつけたのは男性？男性のスポーツ選手はフルネームで呼ばれるのに、どうして女性選手は、かわいい「ニックネーム」で呼ばれるの？こんな風に、男女が違つたように描かれるのは、私たちに「これであるある！」と思わせるような、男女の役割分担や男らしさ、女らしさを前提に、テレビの番組や新聞、雑誌の記事が作られていることが多いからなのです。

キッチンに女性しか登場しないCMは、「女は家事、男は仕事」という性別役割をもとに作られていると思いませんか？ダイエット飲料のCMにスリムな女性が出てくるのは、作り手が、か細くてたおやかな女性を女らしいと思つているからかもしれません。反対に、栄養ドリンクのCMには、「たくましく元気なのが男らしさ」という価値観が忍び込んでいふのでしよう。スポーツにおいても男性選手と女性

選手の扱われ方が違つたのは、男性は結果を求められるのに対し、女性は能力よりも外見やイメージに注目が集まりやすいからではないでしょうか？

ここで取り上げたのはほんの一例です。メディアから発信される情報の中には、性別に関する固定観念や、型にはまつた価値観が潜んでいることが珍しくありません。私たちは、「テレビで言つていたから」「新聞に書いてあつたから」と、メディアから発信される情報のすべてが、正しいもの、偏りのないものであるかのように思いがちです。しかし実際は、同じ内容の情報であっても、伝える側の視点によって意味合いが変わつてきます。密かに込められたメッセージに気がつてみると、見慣れたテレビや新聞の姿がいつもと違つて見えてきますよ。(ブーケ21事業協力スタッフ執筆)